茨木の魅力ある高校紹介

茨木には他にない特色ある活動で、具体的な地域連携を実現している学校があります。今回はその中から「早稲田摂陵高等学校」を紹介します。

早稲田摂陵高等学校

北摂丘陵の一角、甲子園球場の約2倍という緑豊かな学び舎に中高合わせて1070人が学ぶ

早稲田摂陵高等学校のあゆみ

市の中心部から車でおよそ20分、街中を過ぎ田畑が広がり緑が多く見える坂を上がっていくと、校門が目に入ります。

昭和37年に全寮制の大阪繊維工業高等学校として茨木の宿久庄に設立されました。昭和49年に摂陵高等学校に改名し、その後、中学校の併設を経て、平成21年に早稲田大学の系属校となり、校名を早稲田摂陵高等学校に変更しました。翌年、男女共学となり、平成23年に創立50周年を迎えました。

全国や海外からの生徒を受け入れるために、学校の敷地内に「新清和寮」を付設しています。中学生は4人部屋、高校生は個室で、学習・食事・洗濯サービスなど、専門のスタッフがしっかりと生徒たちをバックアップしています。

夢と希望を大きく育み、実現へと導く豊富なプログラム！

「地域社会・国際社会に貢献できるグローバル人材の育成を目指して！」を教育の目標に置き、特に学力向上の取り組みと英語教育の充実等に力をいれています。

1. 基礎科目である国語・数学・英語で3年間のカリキュラムの約50%を設定
2. 国際社会で役立つ英語教育の充実
   - ●受験英語にとどまらない、英語スキル獲得支援
     - ・外国人講師による「コミュニケーション英語」カリキュラムの充実
     - ・海外語学研修や英検の取り組み
     - ・e-ラーニング（独自のネット学習）による自習支援
   - ●異文化交流の促進
3. 知識定着の確認に小テストを毎朝実施
4. 校内予備校や放課後の講習など、放課後の学習プログラムを強化

ザ・シンフォニーホールでの定期演奏会

世界でも活躍するウィンドバンド

普通科の中に女子だけの吹奏楽コースが設けられています。昭和32年に阪急百貨店が社員教育のために設立した阪急少年音楽隊の伝統とサウンドを継承し、音楽の専門教育を行っています。マーチングを得意とし、これまでに13回全国大会に出場し11回金賞を受賞しました。海外への遠征も行い、平成26年にイタリアで開催された国際音楽祭で優勝し、大統領賞を受賞しました。また、地域の小学校の運動会や敬老会、イベントなどにも参加し、地域との連携を深めています。

取材後、練習を見せていただきました。見事にそろったキレのある動きや力強い演奏に感動しました。また、上級生が下級生に優しく丁寧に教えている光景に、ほのぼのとした気持ちになりました。

市民インタビュー　第59回

この人に会いたくて

ハーモニカ奏者

大石（おおいし）　喜一郎（きいちろう）さん

ベージュのシャツにベスト、模様の入ったおしゃれなネクタイ姿。とてもダンディーで、78歳には見えないはつらつとした印象の大石喜一郎さん。長年、茨木市や大阪市でハーモニカ教室を主宰されてきました。ハーモニカとの出合いやハーモニカの魅力などについてお聞きしました。

最近ではあまり一般的でなくなったハーモニカですが、こんなにも魅力的なものなのだと驚きました。心に響くような演奏も聴かせていただきました。

■ハーモニカを始めたきっかけは

小学校2年生で終戦を迎えました。終戦後のみんなが貧しい時代でしたが、楽器が好きな伯父がいたこともあり、小学校5年生の頃、一番手軽に思えたハーモニカを手にし自己流で吹いていました。中学3年生の時、担任の先生から「なかなかやるじゃないか」と声を掛けてもらいました。これが公的な活動に入るきっかけになったと思います。進学した高等学校は音楽活動の盛んな静岡市にあり、そこのハーモニカバンドに入りました。演奏のレベルは高く県の大会では毎回優勝しましたが、東日本大会では毎年2位で、仲間とともに編曲や練習を工夫し、最も熱心にハーモニカにのめりこんだ時代でした。

高度成長時代に社会人になり仕事に熱中し、ハーモニカから遠のくことになりました。バブルがはじけて仕事量が減り時間の余裕ができた頃、ハーモニカの指導や演奏活動を再開しました。同時に編曲も手掛けるようになりました。

■ハーモニカの魅力とは

郷愁を覚えるようなやさしい音色と表現力の豊かさではないでしょうか。音には減衰音（徐々に小さくなる音）と持続音（鳴り続ける音）があり、ハーモニカは弦楽器と同じ持続音です。そして途中からだんだんと音を大きくすることもできますし、演歌の歌手のように滑らかに徐々に音程を変えることもできます。唱歌、民謡、ジャズなど、幅広いジャンルの曲を伴奏とメロディを一人で演奏できるところも魅力の一つです。

■初心者への指導は

ドレミだけの音階の曲から始め、徐々に音域を広げ、半音の入った曲へと進みます。音楽理論や厳しいことを言っても楽しくないので、あまり細かく言わないで、気の合う者同士が顔を合わせて楽しく続けることができればよいと思います。「好きこそものの上手なれ」で音楽を好きになり、愛着の持てる気に入ったハーモニカを使うことが一生懸命に練習することにつながります。

■これからやっていきたいことは

最近は教室も減らして負担が軽くなりましたので、もう少しお役に立てることはないかと思いまして、街かどデイハウスで高齢者の方に簡単な演奏を教えることになりました。また、パートナーに恵まれればクラシックの曲、特に交響組曲に挑戦したいです。学校の授業でもハーモニカの時間が増え、裾野が広がることを願っています。

数々の国内外の大会やコンテストで受賞

ハーモニカサークルで指導中の大石さん

エッセイ　第54回

「空の青さに」

梅澤 智恵子

このごろ　空を見上げては
つくづく思う
空が青くて　きれいだと

三、四十年前の空を思い出すと
晴れていても　空は灰色だった
煙突からは　煙がもくもくと
車からは　排気ガスが絶え間なく
吐き出されていた

光化学スモッグ注意報や警報が
毎日のように発令され　その間
子どもたちは　プールで泳ぐことも
外で遊ぶことも　できなかった

海や川は汚され　悪臭が漂い
健康被害が広がった
水俣病　四日市ぜんそく
イタイイタイ病
公害訴訟があちこちで起こった

高度経済成長が
何よりも優先された時代だった

長年かかって
やっと取り戻した　この青空を
もう手放さない
同じ過ちを　繰り返さない